



少年形競技会、愛知2度目の優勝

10月12日(月・祝)、日整柔道大会が講道館で行なわれ、少年形競技会において、年々レベルが上がるなか、愛知県ペアが他県を圧倒して見事優勝の栄誉に輝いた。



第5回文部科学大臣杯争奪 日整全国少年形競技会

日整主催の少年形競技会は、あらゆる柔道の全国大会のなかで唯一の形の大会である。よって、公益性とともに柔道整復師の認知性のために、その意義は非常に大きい。そこで日整では、この形競技会を重要な事業と位置付け、少年柔道大会とともに前面に押し出していくことが決まった。昨年まで形競技会は、大道場の少年大会と同時進行という形で階下の国際部道場で実施されていたが、今回から大会要項を変更し、午前中いっぱいを使って大道場で単独で開催されることになった。



9時20分から予選が開始され、全国から集まった29組の子どもたちがA・Bの2ブロックに分かれて技を競った。愛知県は半田支部から、本会大会で優勝した萩田兼市君(取・小6)と石原涼葉さん(受・小6)がAブロックの7番目に出場。破綻のない演武で両ブロック通じてトップで予選を通過した。

決勝は各ブロック上位3組の計6組によって争われ、最後に出場した愛知県は、予選を上回る完璧な演武で他を圧倒、2位に4.4ポイントの大差をつけ79.7ポイントの高得点で見事優勝を果たした。

監督の森 正仁会員(半田)は熱いものがこみ上げるなか、「厳しい練習によく耐えてくれた選手たち、けがをさせないよう配慮してくれた武豊少年柔道教室の指導員、そして病気をしないようにサポートしてくれたご両親に感謝します」と語り、県大会後の3か月間、技の修正などを一緒にみてくれた相羽秀昭会員(半田)の協力には本当に感謝していると述べた。さらに、「来年も優勝を狙う。練習どおりのことができれば大丈夫」と力強く抱負を語った。

優勝 愛知県 準優勝 香川県 第3位 北海道A 第4位 静岡県

日整 学術・生涯学習講習会に理事8名が参加

その後、岡山県のボランティア活動報告や、岩手県会員による距離関節に関する実技発表などが行われ、午後4時30分に閉会した。

午後2時前からは、「柔道整復師とリハビリテーション」と題して学術講習会が行われた。講師の富山大学大学院教授・西条寿夫先生が、富山大学大学院柔道整復学講座報告会として、昨年の急性期の腰痛に対する徒手療法の有効性を再び概説した後、認知症の現状や推移などを紹介し、特殊器具を使った口唇閉鎖訓練の有効性を示すとともに、介護領域における柔道整復師の役割について述べられた。



血糖には脂質や蛋白質ではなく糖質が直接影響を与える。したがって糖尿病にはカロリー制限食ではなく糖質制限食を摂るべきだと江部先生は説く。糖質制限食は、万病の元といわれる酸化ストレスの発生を抑え、生活習慣病ばかりではなく、食後の眠気を抑制させたり、免疫力や自然治癒力を向上させたりするなどの効能もあるという。

聴講者のほとんどが、年齢的に生活習慣病やその予備軍であるため、興味深く耳を傾けていた。とりわけ、主食は未精製の穀物が好ましい、白パンや白砂糖など精製炭水化物は極力減らす、肉類は適量摂るなど、「食生活十箇条」の具体的なアドバイスは聴衆の心をがちり掴み、講演終了後もこの話題で持ちきりであった。



特別講演・江部康二先生

10月11日(日)正午から、日整会館において第23回日整学術・生涯学習講習会が開催された。全国の社団役員らとともに、本会からは森川会長はじめ全理事8名が参加した。工藤鉄男会長の挨拶に続き、「糖尿病と糖質制限食―人類本来の食事、人類の健康―」と題して、高雄病院・日本糖質制限医療推進協会理事長の江部康二先生による特別講演が行われた。

第39回厚生労働大臣旗争奪 日整全国柔道大会

会員の大会は、今回の要項の変更により、昨年までの午後の大道場での開催から、準々決勝まで形競技会と並行して午前の学校道場で1面のみを使って行なわれることになった。試合は全国の16チームによる5人のトーナメント制で進められ、春日井部長が監督を務める東海東部は、石田雅明七段(大将・鶴舞)・岩澤勇治五段(副将・静岡)・石黒貴彦四段(中堅・岡崎)・浅井友哉参段(次鋒・一宮)・梅原拓実参段(先鋒・静岡)が出場した。

初戦の相手は近畿チーム。先鋒が大苦戦の末、指導2を獲られて破れ、副将が内股で一本を獲られた。大将戦で石田選手が背負投で有効を奪い、そのまま後袈裟固で一本を獲ったが、結局1-2で惜敗、初戦で涙を飲んだ。相手の近畿チームが決勝戦まで勝ち進んだため、選手や応援者はよけいに悔しい思いを抱くことになった。



準決勝と決勝は、少年形競技会終了後の大道場に会場を移して行なわれ、東京が1-1から代表戦を制して優勝した。

優勝 東京 準優勝 近畿 第3位 北信越西部・南関東B

第24回文部科学大臣杯争奪 日整全国少年柔道大会



少年柔道大会は、今回午前中から午後に変更して、48チームが参加して大道場で行なわれた。大石康監督(半田)率いる本県チームは2回戦から出場し、初戦の滋賀県に5-0で圧勝、3回戦の宮崎県に2-2(内容勝)で勝ち上がっていった。しかし千葉県との準々決勝では、先鋒・次鋒が有効を獲って有利に試合を進めるも、中堅が場外際で有効を奪われ、寝技で一本負けを喫したことで流れが変わり、結局2-2の内容差により惜しくも敗退となった。勝ち上がった千葉県は広島県を退けて優勝をしたことから、会員の大会同様、こちらも大石監督はじめ選手たちは悔しい思いを募らせた。

大石監督は、「よい流れを作ったが、中堅がポイントを獲られて選手たちは焦ってしまいポイントが獲れなかった」と敗戦の弁を語った。表彰式ではベスト8ということで敢闘賞を授与された。

優勝 千葉県 準優勝 広島県 第3位 神奈川県・兵庫県 敢闘賞 愛知県ほか

日本柔道整復師会 第50回東海学術大会 愛知大会

12月6日(日) 10:00~16:30

ウインクあいち

「最近のがん医療とがん対策」

愛知県病院事業庁長 愛知県がんセンター名誉総長

二村雄次先生

特別講演

10:20~12:00 2階大ホール

